

令和3年度第3回（第72回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：令和3年12月7日（火）15:00 ～ 16:20

場 所：Zoomによるウェブ会議

出席者（順不同・敬称略）

高木真人委員長、湯本公庸委員、大和田淳委員、原田克之委員、木下泰三委員、
柳川博之委員、木寺幸司委員、高田英治委員、蔦森秀夫委員、橋本克巳委員、
矢内悠介委員、尾崎章幹事、
オブザーバ：井上和久様（日本コンクリート工学会）

配布資料

- 資料 3-1 令和3年度第2回（第71回）CPDプログラム委員会議事録（案）
- 資料 3-2-1 第35回（2021年度第3回）CPD運営委員会議事録
- 資料 3-2-2 第36回（2021年度第4回）CPD運営委員会議事録
- 資料 3-3 日本工学会公開シンポジウム
- 資料 3-4 第3回 世界エンジニアリングデー記念シンポジウム
- 資料 3-5 日本工学会 CPD ガイドライン_改訂コメントシート
- 資料 3-6 CPD 協議会 2021 事業計画 2020 事業報告
- 資料 3-6 別紙 CPD 協議会 2022 事業計画 2021 事業報告

議事

1. 前回議事録の確認

- 資料 3-1 により、前回の議事録確認を行った。特段の修正・コメントは無く、本議事録は確認された。

2. CPD 協議会運営委員会（第 35、36 回）報告

- 資料 3-2-1、3-2-2 により、CPD協議会運営委員会の議事内容が報告された。
- 「2022 事業計画 2021 事業報告」については、来年1月の全体会議で審議する予定であり、原案について本日議論頂くこととした旨、高木委員長から補足説明があった。

3. CPD 公開シンポジウムの開催結果

- 資料 3-3 により、高木委員長から説明があった。
 - 日本工学会／科学技術人材育成コンソーシアムと CPD 協議会の共催で、「初等中等教育からリカレント教育まで」のテーマで、CPD から範囲を広げて開催した。
 - 申込者は 110 名、うち 86 名が参加した。
 - 産業競争力懇談会（COCN）や日本ディープラーニング協会など、産業界の視点に軸足を置いた講演を重視し企画した。産業界のニーズを取り入れるという、CPD プ

プログラム委員会の今年度の方針や CPD ガイドラインの見直しの方向性にも沿ったものとなった。

- 藤井先生との質疑応答では、大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育について、社会のニーズの変化に応じて大学と社会（産業界）の双方向で教えあう必要があり、そのような場を作りたいとのコメントがあった。CPD 協議会の活動にも参考になると思われた。
- 後半の意見交換では、COCN 江村様にも参加頂いた。「学びのイノベーションプラットフォーム」の立場から、大学に入る前の意識づけが重要、教育に関する従来の様々な活動も「点」で行われておりそれをつなげていくことが重要、教育のあり方をリデザインするとの「プラットフォーム」設立の目的について説明された。
- 藤井先生と廣瀬先生・荻窪先生の講演資料については、日本工学会のホームページに掲載予定である。

4. 世界エンジニアリングデー記念シンポジウムの準備状況

- 資料 3-4 により、高木委員長から説明があった。
 - Zoom ウェビナーによるリモート開催（登壇者もオンラインで参加）となる。
 - プログラム、登壇者等すべて確定。後援の依頼手続きも順調に進めている。

5. CPD 協議会事業報告・事業計画の作成について

- 資料 3-6、同別紙により、高木委員長から説明があった。
 - 今年度は、資料 3-6 「2. CPD プログラム委員会関連活動」に基づき、産業界ニーズの情報収集、国や技術士会への協力、CPD ガイドラインの見直し着手などの活動を行ってきた。
 - 2021 年度事業報告（案）には、上記活動を反映した記述としている。
 - 2022 年度事業計画（案）では、前年度に引き続く内容・記載となっている。ガイドラインの改訂については、従来の CPD 協議会のスコープをより広げた内容とすることも考えられ、幅を持たせた表現としている。
 - ドラフトの事務局提出が 12 月 25 日なので、ご意見等あれば、12 月 17 日（金）までに、メール等で連絡をお願いしたい。ご意見の取扱いは来年 1 月の運営委員会で審議させて頂く。

6. 日本工学会 CPD ガイドラインの改訂

- 資料 3-5 により、事前に頂いたコメントの紹介・確認を行った。
 - CPD の考え方を再確認することは重要。機械学会では、CPD ポイント登録システムを停止するとともに CPD 協議会を脱退されたと伺っているが、一方で優れた教育プログラム・活動を実施されており、協議会メンバーを継続して頂き良かった。CPD の考え方のあいまいさも一因かも知れない。IEA の定義では、CPD は、知識とスキルの体系的な向上と拡大、及び実践的なキャリアを通じたエンジニアリング

業務遂行に必要な個人の資質・能力の向上となっている。これらの点を含めて検討を進めたい。

- 教育分野に関しては、「技術士に求められる資質能力」（技術士分科会資料）に IEA に準じて 7 つのコンピテンシーが示されている。ここに含まれる技術者倫理を加えることに異論はないと思われるが、リベラルアーツまで含めるかは、今後の議論であらう。
- 引続き検討を行うので、次回以降も気が付いた点をご意見をいただきたい。

7. その他

- 次回については、別途日程調整を行う。

以上